

幼稚園 「英語にふれてみよう」が 1年を経過しました。



いうより耳で聞いたものをそのまま口に出すことが大事です。日本人はいくら文法や単語を理解していても海外の人と会話ができない。発音なんておかしくていいし、身振り手振りのジェスチャーで理解しあえるのだからこの年代で楽しく英語に触れ体を動かすことは重要です。

— 和田先生で自身、1年間経過してみても
感想はいかがですか？

毎週火曜日に広野幼稚園に来るのが楽しみです。子どもたちはみんな素直で、私が子どもたちからパワーをもらっています。



▲先生とのじゃけんもちろん英語です

▲動物の名前を上手に答えられるかな



幼少期に英語に慣れ親しむことを目的に広野町が独自に取り組んできた「英語にふれてみよう」(英語の時間)が1年を経過しました。子どもたちはどのように取り組んでいるのか取材しました。

「英語にふれてみよう」は毎週火曜日にほし組、つき組、ゆき組、それぞれ30分程度、歌や踊りなど子どもたちを飽きさせない内容となっています。担当の先生は以前にもご紹介した、和田真弓先生です。

和田先生が教室に入るとすぐ「Hello!」「Very good」「Stand up」の声に子どもたちは、素早く反応し「Hello!」と笑顔いっぱいであげ、動物の名前を答えるカードゲームでは、羊を「sheep」と答えたり「Do you like rabbit?」の先生の質問に「Yes!」と答えるなど呑み込みがはやい様子でした。

時間終了後、子どもたちに感想を聞くと「ゲームが楽しかった。またやりたい。歌がたのしかった。」などの答えが返ってきました。また、担任の先生にも感想を伺うと「英語にふれてみようを楽しみにしている子がたくさんいます。今日は英語の先生来ないの?と質問してくる子もいます。」と答えていただきました。

和田先生に話を伺いました。

「英語に触れてみよう」が1年経過して子どもたちは楽しく英語に触れているようですが

子どもたちは楽しく英語に慣れ親しんでいるようです。この時間は、初歩的なことを楽しく英語に触れることを大切に進めています。話せるとか、文法とかではなく、英語を「音やリズム」といった感性でとらえてもらえるよう心がけています。

子どもたちは先生が言う英語を理解しているように思えますが

子どもたちは耳がいいですし、反応が素早い。英語の発音もすごくいい。ちよつと難しい歌もすぐ覚えてしまう。基本的なあいさつや単語は理解しています。

—この年代の子どもたちに大切なことは?

まずは、英語はこういった感じというものをダンスやゲーム、歌で楽しく触れることが大切です。会話と



幼稚園に入園して2ヶ月が経ったゆき組の様子